
僕は

ムサ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕は

【Nコード】

N0056D

【作者名】

ムサ

【あらすじ】

なんて書けばいいかわからない。

プロローグ（前書き）

初めてだから何があっても気にしないで

プロローグ

寒くて空からは雪が降っている日の事だ。

電車に乗っていた俺の近くに中学生くらいの女の子達がいた。

「寒いねえ」

「うん、すごく寒いね、こんなに寒いなら来年の夏にはどれくらい寒いんだろうね？」

と女の子がアホらしい会話をしていた。

「そうだね、マイナス40度とかでたりして！」

俺は笑いをこらえながら女の子達の会話を聞いていた。

「これで南極とかも助かるね。」

この言葉で俺は思わず笑ってしまった。「うわっ！！何なのアイツ！一人で笑ってるよ、変態かな？」

「きつとそうだよ、恐いからあっちに行こ」

なんと俺は女の子達の会話に笑っていたのに女の子達から変態扱いにされた。

「俺は変態じゃない」

と小声で言ってみた。

そんな事があつたが俺は目指していた駅に着いた。

そして駅から1時間くらい歩いた場所に海がある。

僕は少し足が痛いからそこまでタクシーで行こうと思っていたのだが、2138円しかないので辞めました。

「ちよつと、その人」

後ろから誰かが俺に喋ってきた。

「なっなんだ？」

少し強気に返事をして後ろを向いて見ると、そこには可愛い女の子がいた。

女は走ってこっちにくる。

プロローグ（後書き）

どうでした？

やっぱりダメでした？

その1（前書き）

女の人が走ってきたんだぜ

その1

走ってきた女の人は遠くから見ても可愛いのがわかる。

身長は小さくて髪の色は黒で髪はロングだ。

だが可愛いくとも走ってくるから恐くなってきた女から逃げた。

「あっアンタちょっと待ちなさい」

俺は逃げながら女に言った。

「待てって俺の事か？」

「アンタ以外に誰がいるのよ」

俺は足が痛くなってきた止まってしまった。

「はぁはぁ、やっと止まったわね！アンタのポケットから財布が落ちたわよ」

女は近くで見ても可愛い

「ちょっと人の話を聞いているのアンタのポケットから財布が落ちたよ」

俺は今の言葉でポケットに手をつ込み財布があるか調べた。

もちろん、俺のポケットから財布が落ちたんだからない。

「ありがとう。君は優しいね」

と言って頭を一回ペコリと下げた。

「私の名前は七原かぐやって言うんだ。だから次からは君って呼ばないでね！でアンタの名前は何て言うの？」

かぐやがニコニコな顔で聞いてくる。

だから俺はカッコよく名前を名乗ってみた。

「俺は西藤剛さいとうたけるって言うんだぜ。」

「いい名前だね！剛は私の兄さんと一緒の名前だよ」

「そうなんだ、かぐやの兄さんと一緒の名前なんだ」

「うん だけど今は兄さんが居ないんだ。3年前に行方不明になった」

「あっ、ス…スマン」

「あはは いいんだよ、剛は今からどこに行くの？そっちに歩いて行くと海に着くけど冬だから海ではないよね!？」

かぐやは興味津々に聞いてきた。

「海だよ」

俺は即答した。

「冬の海に何をしに行くの？」

「そんなに気になるか？」

かぐやは少し怒った顔になった

「質問してるんだから剛は質問にだけ答えればいいの」

その1（後書き）

やっぱりダメだった？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0056d/>

僕は

2010年10月8日13時41分発行